

～教員おすすりめ本～ No. 10

経済学部 総合経済政策学科

河田 幸視



『世界の食料ムダ捨て事情』

トリストラム・スチュアート 著；中村友 訳

【先生からのコメント】

世界の食料の約3分の1が、食べられずに捨てられている。破棄する食料の生産には、世界の水の4分の1が費やされ、生産過程で温室効果ガスが発生する。余分に生産することで森林破壊や魚介類の乱獲の問題も助長されるだろう。本書は、この由々しき問題を取り上げたものである。

本書を紐解かれるなら、まずは1章の最後にあるカラー写真をみていただきたい。本文では、有名なミレーの『落穂拾い』は何を描いたものか、EUでは屈曲した野菜の販売が禁止されていた、世界の漁業資源が枯渇する中で大量の混獲魚が海中投棄されている、といった興味深い話題が尽きない。巻末には、主要なエビデンスがデータで示されている。



『海軍主計大尉小泉信吉』

小泉信三 著

【先生からのコメント】

著名な経済学者である小泉信三が、第二次世界大戦で亡くした息子の生涯をしたため、近しい人々に配った私家版を、信三の死後に公刊したのが本書である。信吉の生誕に始まり、その没後約1年をもって擱筆されたこの書には、戦地からのものを含む多くの書簡が採録されつつ25年の生涯が描かれている。

本当に大切なことは言葉にならない。その名状しがたい心の内が、事実を列挙する中で自然と湧き出ているところが、なにより心を打つ所以と思われる。時が経ち、世相が変わり、本書に描かれている世界は、現在とはかけ離れている。だからこそ、改めて手に取り、今の世情を考える一助にしたい書である。

2017年5月12日
近畿大学中央図書館